

目的：着心地が良く、着脱が容易で、活動しやすい高齢者用衣服を設計するにあたり、まず、第一段階として、その実態を把握し、問題点を見い出すことが必要であると考え、アンケート調査を実施した。

方法：とげぬき地藏等において、高齢者の衣服や、活動状況をビデオで撮影、観察した後、アンケートを作成した。世田谷区の老人クラブに所属する60歳以上の女性300名を対象に、留置法によるアンケート調査を実施した。有効回収率は、75.3%であった。

結果：今回のアンケートの集計結果から、高齢者用の衣服設計をする上で重要な点として、以下の3つのことがあげられる。

①衣服設計において、年代差を考慮する必要がある。加齢とともに、背がまるくなり、身長が低くなるなどの体型的変化があるが、階段昇降には手すりを使用する、立ったまま靴下をはけない等の下半身の運動機能を中心とする身体状況においても、年代差が著しい。

②既製服において、腰囲・腹囲を中心とする周径項目、着丈・袖丈などの丈項目、及びその組み合わせについての不満が大きい。

③高齢者にとって重要な、着脱の容易さの点で考えると、後ろファスナーや、後ろボタンの衣服、かぶる衣服、袖口がボタンでとめるようになっている衣服は、衣服設計をするうえでさけた方がよいことがわかった。